

(1) 事業の概要

事業名：アライグマ生息状況調査（啓発活動等）

事業主体：長野自然環境事務所

事業の期間：平成 23 年度・24 年度

事業地：長野県内

防除対象種：アライグマ

事業の概要：長野県と連携を図りながらアライグマの詳細な生息状況を把握するとともに、得られた情報を共有し地域に応じた普及啓発活動を実施することにより、地域が主体となった防除を効果的に進めるために必要な体制の構築を目指す。

(2) 事業開始の背景

外来生物法施行当時において、すでにアライグマが広くまとまった分布域を形成し、顕著な被害が報告されていた北海道、関東、近畿の3地域をモデル事業の対象地として選定し、これら3地域において、平成17年度から平成19年度までの3ヵ年の防除事業が実施された。その終了を受け、平成18年度に環境省が実施したアライグマの分布調査結果から、侵入初期と考えられる地域である四国（主に香川）と比較的生息情報の多かった佐賀県、長崎県からの生息分布拡大などが危惧された九州（北部九州）の2地域を新たなモデル事業対象地として選定し、それぞれモデル事業を実施した。さらに、その後侵入初期の地域として、中国、中部（長野）についてもモデル事業を順次開始した。

なお、平成18・19年度には長野県東信地区（佐久市周辺地域）を対象として、被害が問題視されるようになったアメリカミンクの生息状況及び捕獲調査が行われ、同時に軽井沢町を中心に野生化が報告されるようになったアライグマについても生息状況調査を実施した。

(3) 長野県内におけるアライグマの生息状況

平成21年度に長野県農政部が実施した「長野県におけるアライグマ及びハクビシンのアンケート調査報告書」によると、県内78市町村のうち約3分の1にあたる29の市町村でアライグマの生息情報が寄せられている。確認された年代では過去5年以内が最も多く17市町村であり過去10年の間という回答を含めると8割近くにあたる23市町村にのぼる（なお、アンケート調査によるため必ずしも全県を網羅した情報ではない）。また、軽井沢町は町独自の有害鳥獣駆除作業を継続して実施しており、2001年から2011年までの捕獲数の累計は56頭である。現時点においては散発的かつ低密度であり侵入初期の段階である

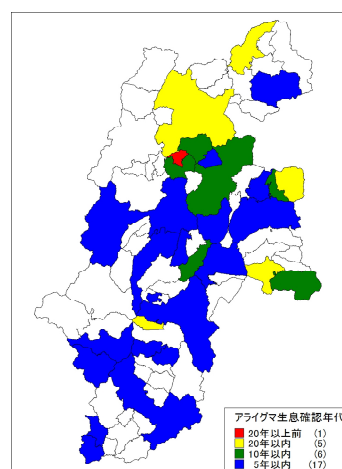


図. 長野県内のアライグマ生息確認状況

と考えられる。

(4) 事業の実施方法等の検討体制

事業請負者である「NPO 法人あーすわーむ」(H23)及び「株式会社 地域環境計画」(H24)が長野自然環境事務所及び長野県庁の関連部局（環境部・林務部・農政部）の担当者が協議して事業内容等を協議した。

(5) 事業の目標の設定と実施体制

[事業の目標]

長野県内のアライグマの詳細な生息状況の把握及び得られた情報の共有化と地域に応じた防除体制の構築について検討する。

[事業の実施体制]

長野県の関係部局と連携しながら事業請負者である「NPO 法人あーすわーむ」(H23)及び「株式会社 地域環境計画」(H24)が中心となり事業を実施した。

(6) 事業の内容

[平成 23 年度]

1) 生息状況の確認

長野県の関係部局と調査箇所を協議、選定し、過去に生息情報が得られている 5 地域及びその周辺 6 地域計 11 市町村で聞き取りを行い、約 70 箇所 で痕跡調査を実施した。痕跡からさらに確度の高い情報を得るため 7 市町村にセンサーカメラを設置したところ、愛知・岐阜県境に位置する下伊那郡根羽村において複数頭が撮影されこの地域で複数生息することが明らかとなった。また、これまでに根羽村を含む 6 市町村で捕獲されたことが写真や捕獲個体により確認された。

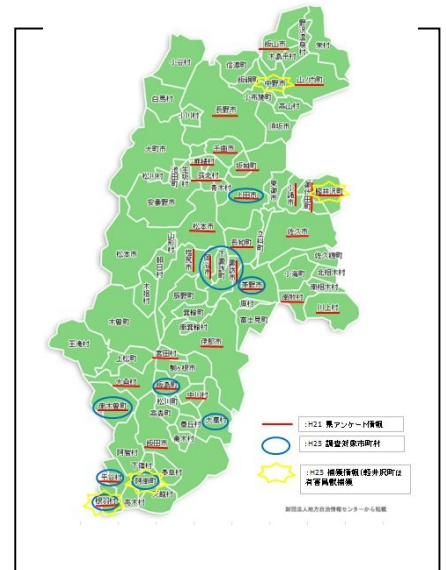


図.平成 23 年度調査対象地域

表.平成 23 年度調査地域における生息状況のとりまとめ

地方	調査地名	H21年度調査における生息情報			本調査における生息情報				
		市町村担当者	行政外	確認年	目撃情報	センサーカメラでの撮影結果	得られた捕獲頭数の情報	生息の可能性	その他情報
上小地方	上田市	○	○	5-10年前	○	-	2	○	
諏訪地方	諏訪市	○	○	5-10年前	○	-	0	○	
	茅野市	×	○	5年以内	○	-	0	△	
	岡谷市	-	○	5年以内	○	×	0	△	
	下諏訪町	×	×		○	×	0	△	
木曾地方	南木曾町	-	○	5年以内	○	×	2	○	
	平谷村	○	○	5年以内	○	×	2	○	
下伊那地方	根羽村	×	○	5年以内	○	○	11以上?	◎	
	阿南町	-	×			×	2	○	
	大鹿村	×	×		○	-	0	△	
上伊那地区	飯島町	×	○	5年以内		×	0	△	2009年に足跡情報あり

H21年アンケート調査: ○:情報あり ×:情報なし -:回答なし
センサーカメラでの撮影結果: ○:あり ×:なし -:設置なし

2) 普及啓発のための説明会の開催

アライグマに対する意識を高めてもらうため、「長野県野生鳥獣被害対策チーム」等の協力を得ながら長野県主催で実施する会議や研修会において県内のアライグマの生息状況に関する報告を行った。

表.平成 23 年度アライグマ防除のための普及啓発活動

No.	開催日	主催	開催地域	普及啓発の内容	備考
1	2011.8.10	下伊那地方事務所、飯伊野生鳥獣被害対策チーム	下伊那郡高森町	「中型獣被害防止対策講習会」にて、アライグマ・ハクビシンの生息状況および生息について説明	
2	2011.10.1	長野県環境保全研究所	長野市	「環境保全に取り組む市民大集合2011」において、長野県内のアライグマの状況について報告	本事業により依頼
3	2011.12.3	NPO法人生物多様性研究所あすわーむ	岡谷市 金山神社	金山神社および諏訪周辺での調査結果およびアライグマの生息とその状況について	
4	2012.1.30	長野県野生鳥獣被害対策チーム	塩尻 (長野県林業総合センター)	「長野県野生鳥獣被害対策チーム会議」にて、長野県のアライグマ・ハクビシンの状況について説明	本事業により依頼
5	2012.2.27	松本地方事務所(野生鳥獣被害対策松本地方部)、松本広域鳥獣被害防止総合対策協議会	松本市 (松本合同庁舎)	「中型獣(ハクビシ・アライグマ)・カラス被害対策研修会」にて、長野県内のアライグマ・ハクビシンの状況について説明とポスター展示	
6	2012.3.5	木曾地区野生鳥獣保護管理対策協議会(木曾地方事務所)	木曾福島 (木曾合同庁舎)	「木曾地区野生鳥獣保護管理対策協議会」にて、長野県内のアライグマの状況について説明	本事業により依頼
7	2012.3.16	諏訪地方野生鳥獣対策協議会(諏訪地方事務所)	諏訪市 (諏訪合同庁舎)	「諏訪地方野生鳥獣対策協議会」にて、「長野県内のアライグマの状況」について説明予定	本事業により依頼

3) 周辺県との情報共有

長野県との共催により「アライグマ防除に関する意見交換会」を開催した。

① 北海道大学大学院教授 池田透氏による講演

「アライグマ対策によるネットワーク化と情報共有の意義」

② 隣接県のアライグマ生息状況や取組等の報告

愛知・岐阜の両県から資料提供を受け、群馬・山梨両県から資料提供及び担当者から各県の生息状況や取組に関する報告が行われた。

③ 意見交換

近隣県との情報共有及びネットワーク化の重要性について共通の認識を得ることができ、今後も意見交換会を継続して実施することが有効とされた。

[平成 24 年度] (今後の予定)

1) 隣接他県市町村等における情報収集と整理

前年度調査によりアライグマの生息が確実となった根羽村・阿南町を含む下伊那地域は愛知・岐阜両県に隣接していることから、両県の隣接市町村等における情報の収集を行う。またこれまで環境省や長野県が実施してきた調査情報について整理し一元化する。

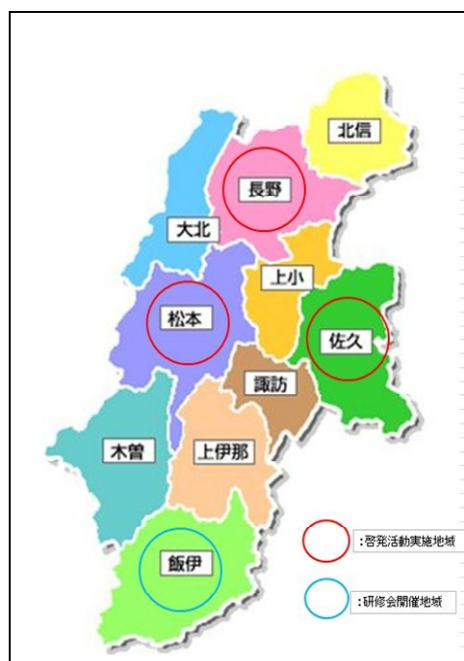


図.平成 24 年度調査対象地

2) 下伊那地域でのアライグマ防除に関する研修会の開催

長野県と連携しながら、下伊那地域の住民を対象として防除の重要性や参加の必要性について認識を深めるための研修会を開催する。研修会ではモニタリングや捕獲等の技術について経験する機会も提供する。

なお、防除対策の現場では、現状の鳥獣対策と並行して行うケースが想定されるため混乱のないよう配慮する。

3) アライグマ防除に関しての啓発活動の実施

長野県と調整、連携を図りながら、行政担当者又は農家等地域住民を対象として県内の生息状況及び捕獲方法等に関する説明等を含んだ啓発活動を実施する。対象地域は松本、佐久、長野とする。

4) 隣接県との情報共有、意見交換会の開催

23年度に引き続き今後のアライグマ防除を効果的に進める上で必要となる情報の共有を行うため隣接各県の関係する部署の担当者等による意見交換会を開催する。意見交換会では収集したアライグマ情報の整理の結果を報告するとともに、継続的な情報収集や広域的情報管理についても検討を行う。

5) 平成 25 年度の事業内容についての提案

24年度事業実施内容を踏まえた上で、平成 25 年度事業として実施するべき内容について具体的に提案する。

(7) 関連事業

[長野県による事業]

- ① 平成 23 年度緊急雇用創出事業により「アライグマ生息状況調査」を実施。県内の 4 町村(安曇野市・松本市・麻績村・筑北村)において既存情報の整理と痕跡及びセンサーカメラによる生息調査を実施。麻績村・筑北村では生息の可能性のあることがわかった。
- ② 農政部の「中型獣(アライグマ・ハクビシン)被害対策事業」により地方事務所単位で実践モデル地区を設定して研修会等を実施し被害対策の強化を図っている。(H23・H24)パンフレットの作成・配布「知って防ごうハクビシン・アライグマの被害」
- ③ 有害鳥獣駆除により平成 23 年度中に中野市・阿南町・根羽村・軽井沢町においてアライグマを捕獲。なお軽井沢町では町として「アライグマ捕獲事業」を実施している。
- ④ 自然保護課において特定外来生物に関するパンフレットを作成、アライグマについての情報提供を呼びかけている。「特定外来生物の拡大を防ぐために」(H22 作成)
- ⑤ 「第 11 次鳥獣保護事業計画(H24～H29)」の見直し。有害鳥獣の捕獲に関して、住宅敷地内でのアライグマを含めた小型獣、農林業者の事業地内での外来鳥獣は、銃器以外の方法(小型の箱わな等)に限り、狩猟免許を所持しなくても捕獲許可申請が可能となった。

(8) モデル事業の成果

[直接的な成果]

- ・ 過去に生息情報の得られた地域において、痕跡調査等を実施し、現況の生息状況を把握した。
- ・ 隣接県より、生息情報や取組に関する情報提供を受けると共に意見交換会を実施し、情報共有などの重要性と必要性が認識された。
- ・ 長野県の関係部局（自然保護課・鳥獣対策室・農政部）との情報交換を実施し、共通認識としてアライグマ対策の必要性について意識を高めることできた。

[間接的な成果]

- ・ 長野県として、アライグマ対策の必要性について意識が高められた結果、今後防除実施計画を策定し、被害が広がる前に対策を進める体制構築を目指すこととなった。

(9) 参考文献

NPO 法人あーすわーむ. 2011[長野自然環境事務所請負事業]平成 23 年度アライグマ防除モデル事業調査業務報告書

ワイルドライフコミュニティ研究所. 2009[長野農政部]平成 21 年度緊急雇用創出基金事業長野県におけるアライグマ及びハクビシンのアンケート調査報告書

NPO 法人あーすわーむ. 2011[長野農政部農業技術課]平成 23 年度緊急雇用創出基金事業アライグマ生息状況調査委託業務報告書

長野県「第 11 次鳥獣保護事業計画(H24. . 4. 1～H29. 3. 31)」